

## 平成28年度 第1回 武蔵野市男女共同参画推進委員会議事要旨

日時 平成28年11月21日（月） 午後7時～9時  
会場 武蔵野市立男女共同参画推進センター 会議室  
出席者 権丈委員長、小林副委員長、伊藤委員、大田委員、菅野委員、木下委員、向井委員、山田委員

傍聴者 1名

### 議 題

- 1 委嘱状交付
- 2 市長挨拶（省略）
- 3 自己紹介（省略）
- 4 委員長選任及び副委員長指名  
互選により委員長に権丈英子委員が決定  
委員長指名により副委員長に小林智子委員が決定
- 5 議題
  - (1) 男女共同参画推進委員会運営に関する基準について
  - (2) 男女共同参画推進委員会の今後の進め方について
  - (3) 男女共同参画推進に関する動向について
  - (4) 平成27年度、数値目標進捗状況、各種委員会等女性比率について
  - (5) 平成27年度第三次男女共同参画計画進捗状況と課題について
  - (6) その他

■議題（1）男女共同参画推進委員会運営に関する基準について  
資料3に基づき事務局が説明。一質疑なく了承。

■議題（2）男女共同参画推進委員会の今後の進め方について  
資料4に基づき事務局が説明。

#### 【事務局】

- ・今年度は4回の委員会を予定している。審議内容は以下のとおり。
- ・第1回委員会・・・平成27年度の数値目標進捗状況、各種委員会等女性比率、男女共同参画計画の全体的な進捗状況と課題について
- ・第2回委員会・・・基本目標Ⅰ（男女平等の意識を育むまち）及び基本目標Ⅳ（男女共同参画推進の体制づくりに取り組むまち）に対する進捗状況について
- ・第3回委員会・・・基本目標Ⅱ（生活と仕事が両立でき、個性と能力を發揮できるまち）及び基本目標Ⅲ（人権を尊重し、あらゆる暴力を許さないまち）の進捗状況について
- ・第4回委員会・・・男女共同参画基本条例（仮称）制定後の周知・啓発等、及び第4次計画策定のための市民意識調査の質問内容等について

#### 【委員長】

- ・第3回目の委員会では、各事業を所管する課長との文書でのやりとりよりも、直接話ができるほうがよい。

#### 【事務局】

- ・では、設定することとしたい。

■議題（3）男女共同参画推進に関する動向について  
資料5・6に基づき、国及び東京都の動向について事務局が説明。

#### 【事務局】

- ・第4次男女共同参画計画（国）で改めて強調している視点について
  - ① 男性中心型労働慣行等の変革と女性の活躍

- ② 政策・方針決定過程への女性の参画拡大
- ③ 貧困、高齢、障害等により困難を抱えた女性等が安心して暮らせる環境の整備
- ④ 男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立
- ⑤ 女性に対するあらゆる暴力の根絶
- ⑥ 男女共同参画に関する国際的な協調及び貢献
- ⑦ 地域における推進体制の強化
- ・東京都男女平等参画審議会『中間まとめ』について
  - ① 女性活躍推進計画に盛り込むべき事項、主な取組の方向性
  - ② 配偶者暴力対策基本計画に盛り込むべき事項、主な取組の方向性

■議題（４）平成27年度の数値目標推進状況、各種委員会等の女性比率について  
第三次男女共同参画計画（概要版）及び推進状況調査報告書に基づき、事務局が説明。

【委員】

- ・市役所で採用する女性職員の比率が増加している。試験の実施状況はどのようになっているのか。

【事務局】

- ・一次の筆記試験では男性の合格率が高いが、その後の3回の面接試験等では、女性の合格者の比率が高くなっていく傾向がある。特に男女の合格者数の調整は行っていない。純粋な結果としてこのようになっている。

【委員】

- ・男女共同参画に携わっている市の職員の女性比率はどれくらいか。

【事務局】

- ・現在8人が携わっており、うち6人が女性である。

【委員】

- ・そのうち役職が付いている女性はどれくらいか。

【事務局】

- ・常勤職員の主事が1名、嘱託職員が5名である。

【委員】

- ・基本目標Ⅲの「人権を尊重し、あらゆる暴力を許さないまち」のところで、大学・高校におけるデートDV防止出前講座の校数が平成24年度は1校、27年度も1校となっている。成蹊大学は継続していて、加えて亜細亜大学や獣医生命科学大学でも行ったと思うので、1校ではないのではないか。

【事務局】

- ・平成26年度に武蔵野大学で行っているが、27年度は成蹊大学のみであった。

【委員長】

- ・ここの目標値は学校の数の累積ではなく、平成30年度には6校で行うということではないのか。最終的に6校を目標にし、最初の年は1校、その次は2校、次は3校というイメージであった。毎年少しずつふやしていく計画であるので、27年度は2～3校で行うべきであった。28年はどのような状況か。

【事務局】

- ・まだ1校である。この事業は、委託先のむさしの男女共同参画市民協議会と協働で行っている。高校も開拓したいが、調整中である。

【委員長】

- ・手が回っていないようにも見えるが、何か難しいことがあるのか。

【委員】

- ・大学の授業の一環として行ってもらっているが、高校についてはまだ調整ができていない。こちらとしては入れてほしいと伝えているが、了解がとれずまだ実現していない。

【委員長】

- ・高校との連携が必要ということか。

【委員】

- ・やはりデートDVというのは、できれば中学や高校からしっかり教えていかないといけないと考えている。

【副委員長】

- ・授業はどのぐらいの時間でどのような内容で行うのか。例えば、映像を流すなどしているのか。

【委員】

- ・講義と実演の形式で行っている。学生の実演を見てディスカッションする。授業の一環なので、時間は1時間半である。

【事務局】

- ・参加者は多く約90名である。今後はもっと増やしていきたい。

【委員】

- ・助産師会ではかなり前から毎年、成蹊高校と成蹊中学で行っている。

【委員】

- ・それはデートDVに関するものか。

【委員】

- ・「いのちの授業」の中で男女交際についての内容が出てくるので、そこでデートDVを取り扱っている。生徒はまだ幼いので、デートDVのテーマだけでは理解しづらいということと、自分には全く関係がないという生徒もいるので、まずは、生命誕生とは何だろうというところから入り、そこからデートDVの内容にもっていく。残念ながら、武蔵野市内で行っている高校は成蹊高校だけである。7、8年行っており、大学にも何度か出向いている。中学校は昨年から依頼があり、今後は中高で一貫してやっていくという形になりそうだ。

【委員】

- ・総合学習の中で行うのか。

【委員】

- ・保健室からの依頼で続けており、保健の授業になる。助産師会で行っているものは、都内ではかなりの校数になる。デートDVだけの出前講座となるとハードルが上がってしまうが、命を大事にするというところからの入口にすればできるのではないか。

【委員】

- ・確かに入りやすい。

【委員】

- ・入りやすいし、依頼も増えてくるだろう。

【委員】

- ・そちらの授業がすでにあったので入れなかったのかもしれない。

【委員】

- ・市区町村によっては幼稚園や保育園から、小学校、中高まで積み重ねてやっていくところもある。教育委員会とコラボしているところが他区ではある。残念ながら武蔵野市では行われていない。

【委員】

- ・残念である。

【委員】

- ・台東区や世田谷区はしっかり行っている。この事業を伸ばそうと思えば入口はいろいろある。全部の学校に行けるというのが一番の理想である。

【委員】

- ・ちなみに東京都の教育委員会のほうでは、平成22年にデートDVに関するDVDの資料を作成し都立高校に配布している。また、教員には指導用の手引書を配布しており、それを用いて啓発している。

【委員】

- ・その資料を用いてこのように指導してほしいとの依頼があったので、授業の中で取り入れている。資料だけの配布や、DVDを急に見せてもきっとわからないだろうということで、「いのち」のほうから入っていくことを続けている。また、弁護士や警察を呼び話をしてもらったり、様々な組み立てで行っている学校もある。

**【委員長】**

- ・数値目標の中で乳がん検診受診率があるが、目標値と離れているように見受けられるが、何か工夫されていることや、あるいは行き詰まっているようなことがあるのか。

**【事務局】**

- ・理由がよくわからないため、次回までに確認する。

**■議題（５）平成27年度第三次男女共同参画計画進捗状況と課題について  
第三次男女共同参画計画推進状況調査報告書に基づき、事務局が説明。**

**【委員】**

- ・事業所への助成制度といったインセンティブのようなものがあるのか。

**【事務局】**

- ・ワークライフバランスの推進のための職場環境の整備に取り組もうとする企業に対する東京都からの助成制度がある。また、環境整備の助言をするアドバイザー派遣制度もある。市では創業支援を行っている。

**【委員】**

- ・事業所に向けた啓発はかなり厳しい目標であり、実現は難しいのではないかと。

**【委員長】**

- ・助成制度の周知が目標ということであるが、パンフレットの配架が主な内容か。

**【事務局】**

- ・現時点ではその程度である。

**【委員】**

- ・まずはそこからだと思うので、特に評価しなくてもよいのではないかと。

**【事務局】**

- ・こちらとしては市内の事業主に対し助成制度を含めた啓発をすることを目標に掲げている。

**【委員】**

- ・商工会議所の会議などで配布する方法もあるのではないかと。

**【事務局】**

- ・確かにそうである。

**【委員】**

- ・企業に出向いて何かを説明することは大変である。

**【事務局】**

- ・今後は商工会議所を通じた取り組みを考えたい。また第3回の委員会で企業に向けた啓発を取り上げたい。

**【委員】**

- ・配偶者暴力に関する相談窓口の周知の事業のところになるが、先日公衆トイレでDVの相談カードを見つけた。これまであまり表にでてこなかった内容だが、命にかかわることであり大事なことである。

**【委員】**

- ・昔からあったのだが、ずっとふさがれてきた内容である。女性の社会参加が進みようやく注目されるようになった。最近では誰もが知っているが、少し前までは学校の先生ですらデートDVを知らない人がいた。

**【委員】**

- ・子どもたちの付き合い方でも、暴力の域に入ってしまうようなケースがある。きちんとしたしつけをしてあげないと、最初に悪い出会い方をすると、その感性のまま先々いってしまうケー

スもあるように思う。

【委員】

- ・そう。基本的にはやはり成育歴が大きく影響しているので、被虐歴のある子たちがそのパターンに陥るケースが多い。

【委員】

- ・そのような観点からも、助産師会で行っている生命のテーマから入るDV啓発はよい取り組みである。

【委員】

- ・ぜひ広げて行ってほしい。

【副委員長】

- ・次回の委員会との関係だが、今回は主に目標のⅠとⅣを検討し、その次の回でⅡとⅢの目標を検討することになっているが、ⅠとⅣの事業数は24事業で、ⅡとⅢが80事業である。バランス的に第3回委員会の比重が大きくなりそうだ。ⅠとⅣは比較的早く終わるのではないか。

【事務局】

- ・そのように考える。ただし、第3回委員会は確かにボリューム的に多くなっているが、去年は担当の課長を呼んで直接話を聴く形式で行った。

【委員長】

- ・では、今回はⅠとⅣを行い、もし時間があるようであればⅡ、Ⅲに入るということでいかがか。そして、第3回委員会に担当課長に来てもらい議論を深めるという流れにしてはどうか。

【事務局】

- ・その方法でいきたい。

【委員長】

- ・それから、次回のセンターの管理運営については、事前にある程度資料を読み込んだ上で行ったほうがよいのではないか。

【事務局】

- ・次回委員会の約1週間前に資料を送付したい。

【副委員長】

- ・次回検討予定のものは啓発の関係が多いが、何か具体的にどのような活動をしているのかがわからないと、具体的な意見もでにくいと考える。

【委員長】

- ・啓発講座の一覧などを用意したほうがよい。今回は特に初めての委員もいるので、多めに資料を用意したほうがよい。

【事務局】

- ・準備したい。

【委員】

- ・例えばイベントを行うときに、武蔵境エリアや吉祥寺エリアでどれほどのイベントが行われているのか、地域での活動状況も知りたい。

【委員長】

- ・男女共同参画推進センターだけではなく、武蔵野市全体での取り組みを知りたいとのことである。

【委員】

- ・そう。今後は参加したいと考えている。

【委員長】

- ・そのような形の資料もお願いします。
- ・では、本日の委員会はこれにて終了とする。

## ■議題（6）その他

### ○日程調整

第2回委員会 12月19日（月）19：00～ 、男女共同参画推進センター会議室  
第3回委員会 1月23日（月）19：00～ 、男女共同参画推進センター会議室  
第4回委員会 2月9日（木）19：00～

○マイナンバーについて

— 了 —